

日本助産学会ニュースレター

発行所 日本助産学会

〒111-0054

東京都台東区鳥越2-12-2

日本助産師会館3階

電話・FAX 03-3866-3032

e-mail: jam1987@ninus.ocn.ne.jp

代表者 堀内成子

巻頭言 第24回日本助産学会学術集会へのお誘い

助産を育む Raising Midwifery

第24回日本助産学会学術集会会長 加納尚美

はじめに

2010年3月20日(土)・21日(日)の両日、第24回日本助産学会学術集会をつくば市のつくば国際会議場にて開催することになりました。前日の19日(金)にはプレコンgressも計画しております。学会の企画・運営は、茨城県立医療大学および茨城県内の学会員等で、アイデアを出し合い準備しております。参加して楽しく、充実し、かつお互いに出会い、高め合い、新たな助産学を育み合う学術集会となるようをモットーにすすめております。

プログラムの紹介

今回は、学術集会テーマ「助産を育む」を通じて、子どもを産む・育てる助産行為を、様々な視点で掘りかき深めていきたいと考えております。私たちは、およそ137万年前のビックバンから、40億年前に地球上に生命が誕生して以来、長い年月をかけ、現在の生命に満ちた地球に存在しております。これまで人類は多くの戦争や紛争、自然および人為的災害を経験し、21世紀は人類の壮年期とも言われております。これからの舵取り、方向づけがあらゆる分野で問われており、生命の誕生を助け、育む「助産」という行為も、今まさに重要な鍵を握るに違いありません。そこで、「私」「私たち」「あなた」「あなたたち」自身が主人公となり、各々助産を育むという視点で、性と生殖、子産み、子育て、家族や地域社会のあり方等について、参加型のプログラムを計画しております。具体的内容はホームページでご紹介していきます。招聘講師のバーバラ・カツ・ロスマンは、女性学の立場で、出産や助産、生殖補助医療、子育てについて国際的に活躍されている社会学者です。私がかつてニューヨーク市立大学でお世話になった恩師でもあります。柔らかな、かつ斬新な視点で、講演して下さることと思います。

ポスターおよびロゴマーク

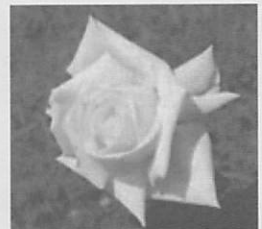
ポスターには学会テーマをイメージしたシンボルを随所に入れ込んでおります。皆様にも是非想像し、かつ意味付けに参加していただけたらと思います。ロゴは、助産を行う、受けるという枠組みを外し、各々が主人公となり、私自身の〇を育む、その行為自身を助産と名づけるという意味を込めております。

一般演題登録および参加申込み方法についてのご案内

第24回学術集会への一般演題登録は、学術集会ホームページより登録して頂きます(<http://www.macc.jp/jam2010ibaraki/>)。学術集会参加申込みは、すべて当日の登録になります。事前参加申込みはありません。詳細は、同封のポスター裏にも書いてありますのでご参照下さい。

開催地、茨城の紹介

開催地であります茨城県は、人口は約300万人、日本列島のほぼ中央を占める関東地方の北東にあり、東は太平洋にのぞみ、北は福島県、西は栃木県に接し、南は利根川をもって千葉県、埼玉県に面しております。歴史も古く、奈良時代に編纂された常陸国風土記に「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びと豊かに暮らし、常世の国のようだ」と記されており、現在も山や霞ヶ浦を代表する湖水、田園と自然豊かな環境の中で多くの農産物に恵まれております。そんな県の花はバラ(右写真)で、今各地で美しい香を放っております。また、江戸時代の水戸藩については説明するまでもありませんが、当時産婆の要請にも力を注いだとの資料が各種の残っております。一方、つくば市は全国きっての研究学園都市です。歴史、自然、文化、最先端の科学技術等の融合した地もご堪能いただけたらと願っております。皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。



第23回日本助産学会総会報告

庶務担当 砥石 和子

日時：平成21年3月21日（土）12：05～12：50

会場：タワーホール船堀5階大ホール（東京都江戸川区船堀4-1-1）

1. 開会あいさつ（堀内理事長）
2. 出席会員数の確認…47名
3. 報告事項
 - 1) 理事会報告（堀内理事）

指名理事2名を推薦し審議の結果、理事会で承認された。入会申込審査を迅速にするために、メール審査を行った。
 - 2) 評議員会報告（堀内理事）

理事会の提案と、第25回学術集会長（名古屋市立大学：北川眞理子氏）の推薦がなされ承認された。
 - 3) 事業報告
砥石庶務担当理事から庶務報告、以降福井副理事長から【総会要綱p.5～8】にそって一括報告された。
総会要綱の訂正
p.7 8. 学術振興委員会 1) ③ 関塚直美→真美に修正
p.8 11. スキルアップ委員会→助産師関連事業・スキルアップに修正
ガイドライン委員会（p.8）は、学術振興委員会として活動したことを説明された。
 - 4) 平成19年度収支決算報告
高田会計担当理事から【総会要綱p.11～12】にそって、一般会計、特別会計について報告された。
総会要綱の訂正
p.12 5 セーフマザーフード基金繰越金平成21年→平成20年に修正
6 スポンサー・ア・ミッドワイフ基金繰越金平成21年→平成20年に修正
 - 5) 監査報告（会計監事2名が欠席のため、平澤理事が代読）

会員から質問・意見がなく、拍手多数として、承認された。
 - 6) 第23回学術学会準備状況
恵美須理事から、第23回学術学会準備状況の説明がなされ、会員から質問・意見がなく承認された。
4. 審議事項
 - 1) 平成21年度事業計画案（堀内理事）

堀内理事長より、【総会要綱p.13】にそって次年度の10項目の事業計画が説明された。
2 助産学に関する研究の振興は、研究を支援するシステムの検討も含めることが説明された。
4 法人化の検討をすることが強調された。
10 看護連、日本助産評価機構等と連携して事業をしていくことが説明された。
会員から質問・意見がなく、賛成多数で承認された。
 - 2) 平成21年度収支予算案（高田理事）

高田昌代会計担当理事から【総会要綱p.14～15】にそって平成21年度収支予算案が説明され賛成多数で承認された。
 - 3) 次々期（第25回）学術集会長の承認（堀内理事）

東海・北陸地区 北川眞理子氏（名古屋市立大学）の推薦があり、賛成多数で承認された。
5. 表彰
平澤理事から平成20年度表彰者の紹介があった。
功労賞：浅生慶子氏、学術賞：辻恵子氏、奨励賞：中根直子氏の3名に対し、理事長から、各表彰者に表彰状が授与された。
表彰者を代表して、浅生慶子氏より挨拶がなされた。
6. 次期（第24回）学術集会会長あいさつ
加納尚美氏から、次期（第24回）学術集会のテーマ「助産を育む」等の報告がされた。
第24回学術集会は、平成22年3月20日（土）・21日（日）つくば国際会議場（つくば市）にて開催されることが紹介された。
7. 閉会あいさつ（福井副理事長）

第23回日本助産学会学術集会報告

第23回日本助産学会学術集会会長 恵美須 文 枝

第23回日本助産学会学術集会を平成21年3月21日(土)22日(日)に、タワーホール船堀(東京)にて開催いたしました。当日参加者は910名となりました。産科医療の荒廃は、出口の見えないままに助産専門職として何をなすべきか、大きな課題を抱えた時期の学会でしたが、昨年を大きく下回った参加者数は残念でした。数にはこだわらず、内容においてだけでも、参加された一人一人が何らかの今後の方向性を見出して頂ける機会になっていればと思います。

学会第一日目は、出産に関わる現状に、どのようにして信頼される助産業務や教育の質を保証してゆくか、今後の評価社会に向けて、日本助産評価機構の紹介を兼ねた会長講演をさせて頂きました。基調講演では、高岡香弁護士に法的側面からみた女性の現状をお話いただき、権利擁護の視点から助産ケアの基本を考える機会となりました。午後からのプログラムは、より実践的・発展的な展開となるよう各会場に分かれて、講演、シンポジウム、ワークショップ及び演題発表の同時並行としました。教育講演の岡井先生には、胎児機能不全に関する考え方と産科医療保証制度の動きについて話をいただき、シンポジウムでは、助産業務の拡大に向けて現場でどのような展開が可能か、多面的な意見交換の機会になりました。更に企業セミナーでは、骨盤ケアの科学的実践技術と子宮頸がん予防ワクチンに関する最新情報をご紹介いただき、口演とポスター発表の会場も熱心な参加者で盛り上がりしました。この日のポスター会場にはマイクの準備がなく、せっかくの発表が残念だったとの声がありました。この場を借りてお詫び申し上げます。

第二日目は、招聘講演の日野原重明先生に、今後に向けて助産専門職への力強いメッセージと具体的な展開の道をお示し頂きました。研究と実践技術に関するワークショップのそれぞれの講師には、2回連続開催というハードな役目をお願いしましたが、お陰で参加者の方々からは満足できる企画であったとの好評を頂きました。これは、現状の産科医療に対する社会の不安に応えられるよう、今こそ全国的により進んだ助産技術を展開できるようにと願っての企画でしたが、準備段階ではいささかの心配もありつつも、講師の皆様のおかげで大成功となりました。講師の皆様改めて深く感謝いたします。4つのランチョンセミナーは、いずれも立ち見が出るほどの盛況で、お願いした企業の皆様への感謝と会場の制限でご入場頂けなかった方々にお詫びを申し上げます。午後からの綾戸智恵さんの特別講演では、出産を自然な人間の営みに取り戻すという強いメッセージと共に「迎え人」になるべしと時代の言葉を頂戴しました。今年の演題発表は、昨年以上の147題を発表いただくことができ、学会の研究的・実践的発展にますますの明るい光を感じる事ができました。発表者の皆様と演題査読にご協力いただきました会員の皆様へ深謝申し上げます。

今日の実状は、まさしく昭和40年代の助産師活動の転換期のように、出産現場の大きな課題に直面しているといえます。半世紀を経た今こそ、再び助産専門職の存在とその力が試されていると思われます。本学会が学術団体としてこれまで以上の力を発揮し、この状況を好転させられます事を願って、次期第24回学術集会会長にバトンを渡します。



ワークショップ：Feeling Birth

平成20年度表彰者報告

表彰関連選考委員会 平 澤 美恵子

【功労賞】 浅生慶子氏は日本助産学会設立に向け組織作りや資金調達に奔走されるなど、学会設立にご尽力下さいました。

昭和62年(1987年)3月日本助産学会設立と同時に理事に就任されて学会の基盤づくりにご貢献下さいました。

以降今日まで、学会の理事や監事、評議員としての責務を果され、平成5年(1993年)には、第7回日本助産学会学術集会会長を務められました。浅生氏は現在も西南女学院大学助産別科の教授としてご活躍です。

【学術賞】 辻恵子氏は平成20年(2008年)9月に聖路加看護大学大学院博士後期課程を修了し、現在聖路加看護大学看護実践開発研究センターの博士研究員です(本年4月より、東海大学健康科学部看護学科に所属)。辻氏の主要論文「女性にやさしいケアー会陰切開の適応を再考する」と、総説の「意思決定プロセスの共有概念分析」で、助産学分野で女性中心のケア実践、研究を展開する要素を導き実践への適応可能性を示唆した論文を発表し、今後の継続的発展が期待される論文として評価されました。

【奨励賞】 中根直子氏は、日本赤十字社医療センター分娩室師長として活躍しております。中根氏は1980年代に日本でもフリースタイル分娩に関心がもたれた頃、開業助産所で研修を積みその奥義を修得しました。臨床に戻り熟練助産師の技として実感できるフリースタイル分娩の知識・技術を、理論的に実践的に臨床に導入し、全国的に普及を図りました。助産技術を伝えるプロとして絶えず自己研鑽し、実践者としてチェンジ・エージェントの役割を担った功績は偉大であり高く評価されています。



左から 中根氏、辻氏、浅生氏

国際助産協働セミナーのご案内

国際助産協働委員会 毛利 多恵子

毎年実施している国際助産協働セミナーは6回目を迎えます。助産師が国際協力に携わる上で有益であろう内容を考え、今年と来年はセミナーを4回シリーズとし、それぞれスタディーツアーを組み入れています。訪問先は2009年ラオス、2010年ブラジルなど南米を考えております。訪問先は委員メンバーが関わっており歴史や保健状況、国際協力の実際について理解しやすい地域を選択しております。また毎年行われる学術集会自由集会用を活用し会員と委員会の交流と国際助産協働について議論を深める場を作りたいと考えています。下記にセミナー予定を提示致します。講師は国際協力や人類学の専門家の方々で現在日程調整または交渉中です。8月初旬には確定した講師、日時、会場を学会ホームページ上でお知らせいたします。多くの方々のご参加をお待ちしております。

2009年度 国際助産協働セミナー予定		
1 回目	9月13日(日) 予定 13:00～16:30 参加費 4000円 東京予定	講義とワークショップ：開発と国際保健医療協力 講師：佐藤 寛氏 (日程調整中) ジェトロアジア経済研究所研究支援部長 開発とは？援助とは？援助とエンパワーメントについて世界はどのような援助をしているか？日本型の開発とはどうあるべきか？開発社会学と援助研究が専門であり国際協力活動の実際に精通される佐藤氏をお招きし講義と参加型のワークショップを開催します。国際保健協力の光と影を知り、国際協力にあたって基本的な姿勢と心構えについて考えます。
2 回目	11月1日(日) 予定 10:00～16:00 参加費 <午前> 2500円 <午後> 2500円 (午前午後) 4000円 神戸予定	講義：母子保健の国際的な潮流 (仮題) 講師：調整中 国際機関や日本が実施している母子保健国際協力の実際と傾向を知り国際協力や助産師への期待について理解します。 ワークショップ：ラオススタディーツアーの準備研修 (スタディーツアー参加の方は必須) 話題提供者：嶋澤 恭子 橋本麻由美 スタディーツアー事前準備も兼ね、ラオスの人々の暮らし、実情、母子保健における国際協力の実際について理解する。ツアーのオリエンテーションも含まれます。
3 回目	12月26日(土) ～1月4日(月) 参加費 20万円位 15名まで ラオス	ラオス国 スタディーツアー 10日間 (現地8日間) 訪問地 ラオス国内 (ビエンチャン他) ラオスに関わってきた国際助産協働委員が案内役となり、ラオス母子保健活動に関連するODA (JICA) や国際機関の視察、現地で活動する日本人との意見交換など (調整中)、村落訪問し母子保健の実際や人々の生活にふれます。
4 回目	3月19日(金) 3時間 学術集会自由集会用 参加費 2000円 茨城県	発表：ラオス国 スタディーツアー報告 スタディーツアー報告、ラオスの実際と国際協力について考え、日本を再発見します。 講演：日本の助産師の昔と今とこれから～文化人類学の立場から～ 講師：奈良女子大学 教授 松岡 悦子氏 日本の助産師の歴史と現実を理解することと国際協力のつながりを考えます。

☆ 上記についてのお申込み・お問い合わせ先 ☆

日本助産学会国際助産協働委員 嶋澤 恭子
 神戸市看護大学研究室直通 TEL&FAX 078-794-8063

国際委員会報告

国際委員会 小黒道子

1. 国際助産師の日 2009年5月5日

ICMは毎年5月5日の国際助産師の日に声明を発表しますが、今年は以下の内容でした。

今だかつてなかったほど世界は助産師を必要としている

2015年までにミレニアム開発目標の4、5、6を達成するには、助産師があと35万人必要¹です！

国連ミレニアム開発目標の2008年報告書は、…妊娠および出産で命を落とす危険性が高い地域は、アフリカのサブサハラと南アジアで依然変わらず…妊産婦の命を救うための取り組みがほとんど進展していない、と報告する。世界でこれらの地域に住む女性の60%以上は、いまだに出産時に専門家のケアを受けていない。この報告書では、他のすべてのミレニアム開発目標は順調に目標達成に近づいているにも関わらず、目標5だけが達成から遠ざかっている²ことを強調している。

依然としてすべての目標は関連しているのだ：貧困および飢餓を撲滅してこそ、HIVおよびマラリアといった疾病を征服してこそ、男女間の平等がより推進されてこそ、すべての子どもが初等教育を受けられてこそ、すべての女性がリプロダクティブ・ヘルスケアにアクセスできてこそ——、母子の命を救うことができるのである。

ミレニアム開発目標の5：妊産婦の健康改善 の達成に向けて、助産師は主要なヘルスケア提供者である³

世界保健機関（WHO）、国連人口基金（UNFPA）、ユニセフ、世界銀行からのメッセージは明確である：これら4つの国連機関は、最も妊産婦死亡率が高い国々への支援を高めるために協力することを最近確認している。又これらの機関は、世界で最もひどい健康格差が妊娠や出産に関連した死亡であり、その99%以上が途上国で発生している事も明らかにした。そして政府や市民社会団体と協働し、“専門家、特に助産師が早急に必要だ⁴”というメッセージに対して取り組むことを誓約した。

ミレニアム開発目標の4：乳幼児死亡率の削減 の達成に向けて、助産師は習熟した新生児ケアを提供する⁵

毎年、アフリカサブサハラ地域および南アジアでは100万人以上の新生児が生後24時間以内に命を落としている。助産ケアを含む十分な保健サービスが受けられないからである。世界中の助産師は、出産する全ての女性が、女性とその子供にとって安全・支持的な環境で出産する重要性を理解している。習熟した助産ケアには、母子両方への救急医療も含まれる。

ミレニアム開発目標の6：HIV / AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 の達成に助産師は重要な存在である

多くの妊婦および新生児が毎年予防可能な疾病で亡くなっている。アフリカサブサハラ地域の全政府は、これらの疾病による壊滅的な死を減らすには助産師が中心的な役割を果たすと考えている。助産師は必要不可欠なフロントラインワーカーとして新生児や子どもへの予防接種を行い、HIV / AIDSの妊婦にカウンセリングや治療、それはPMCTであるが、そういったケアを提供している。脆弱な妊婦とその子どもたちへ抗マラリア薬や蚊帳を配ることで、命を救うと同時に健康を増進する。

ミレニアム開発目標の4、5、6を達成するには、保健サービスの提供システムが機能する中で、有能かつ十分な教育を受けた助産要員を育成するよう世界規模で取り組む必要がある

今後6年間、ミレニアム開発目標の4、5、6の達成に対する切迫感が日々増大するだろう。ICMと世界の助産師たちはこれらの目標達成に向けたグローバル・パートナーと協働することを約束する。本会は、世界80カ国の91団体に所属する25万人の助産師を擁し、近年40の低収入国で助産教育や規定、そして各団体を強化するために国連人口基金（UNFPA）と提携している。ICMはホワイトリボン運動（White Ribbon Alliance = WRA）およびサラ・ブラウン妊産婦死亡キャンペーンにも参加して市民の関心を高め、世界規模の優先事項として妊産婦と新生児の健康を位置づけるためにG8やG20で政治的圧力をかけている。ICMは、保健提供システムが強化され、助産要員が増員されなければならないと明確に理解する。今、迅速に行動をおこさなければ、残りの6年間で無数の女性や新生児の不要な死をなくすことはできないだろう。

今だかつてなかったほど世界は助産師を必要としている！

より詳細な情報については、ICM総裁ブリジット・リンチ、あるいはICM事務局長アグネタ・ブリッジまで連絡を（電話+31 70 3060520、電子メール a.bridges@internationalmidwives.org.）

*** 出典 ***

1. The World Health Report: Make every mother and child count. World Health Organization, 2005.
2. The Millennium Development Goals Report 2008. New York, USA: UN, 2008.
3. MDG 5 Target: Reduce by three quarters, between 1990 and 2015, the maternal mortality ratio. UN, 2000.
4. Accelerating efforts to save the lives of women and newborns. WHO / UNFPA / UNICEF / World Bank. Joint statement: Sept. 2008.
5. MDG 4 Target: Reduce by two thirds, between 1990 and 2015, the under-five mortality rate. UN.

2. 第9回ICMアジア太平洋地域会議のお知らせ

- 会 期：2009年11月19日（木）～22日（日）
- 場 所：インド ハイデラバード
- テーマ：安全な出産にむけた基準設定：女性のエンパワーと助産師の法的権限
- 目 標：公平な人間開発を共有し、ネットワークを育てる
- 目 的：女性、子ども、家族へ質の高いケアを提供するための情報や技術を交換する
各国の助産に関する職能団体の形成および強化経験から学ぶ
女性とその子どもがサービスに公平にアクセスできるよう展望を共有し、行動計画を立てる
- 抄録締め切り：2009年6月30日（火） ※E-Mailによる電子申請が推奨される

詳細はインド助産師協会（Society of Midwives-India）のウェブサイト（<http://www.somi.org.in/>）を参照のこと

*** 本学会では下記の募金を受付けています。 ***
会員の皆様のご協力をお待ちしています。

☆ ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ ☆
(国際基金)

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号：00190-8-710931
加入者名：日本助産学会国際基金

☆ セーフマザーフード基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号：00240-8-6818
加入者名：日本助産学会ICM
セーフマザーフード基金

第23回日本助産学会学術集會会場で多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。下記にご紹介（敬称略）させていただきます。

小木曾みよ子、園生陽子、藤原吉江、嶋澤恭子、高田昌代、林恵子、早瀬麻子、丹下真弓、大谷タカコ、毛利多恵子、松岡恵、恵美須文枝、島田啓子、平澤美恵子、福井トシ子、堀内成子、高橋真理、佐藤香代、有森直子、井村真澄、菅沼ひろ子、砥石和子、宮崎文子、小田切房子、高橋弘子、北川真理子、鈴井江三子、遠藤俊子、村上明美、岡本喜代子、野口真弓、大久保功子、近藤潤子、今関節子、大石和代、島田三恵子、浅生慶子、青木康子、多賀佳子、加納尚美、安藤広子、佐藤喜根子

引き続き皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護系学会社会保険連合(看保連)からの報告

看護系学会等社会保険連合会担当理事 高田昌代、福井トシ子

看保連では、4月24日に日本看護協会ビルJNA総会が行われ、役員改正、活動報告、決算報告がありました。

本会が入っている看護技術検討委員会では、昨年度は各学会から平成22年度診療報酬改定に関する医療技術評価提案書や要望書への意見聴取を行いました。今年度は、平成22年度診療報酬改定に向けた要望書の提出、平成24年度診療報酬・介護報酬改定に向けた検討、重点事項への助成などが活動計画とされました。

本学会としては、日本新生児看護学会と協力して行ってきた「NICUにおける直母指導料」は時期がくれば再検討し、他の医療技術の中で診療報酬として有用な医療技術を今後検討することとしています。

会員の皆様方からも診療報酬として提案いただける医療技術等がありましたら

事務局メール（jam1987@ninus.ocn.ne.jp）にお送り下さい。

第8期学会運営および事業推進組織表
任期平成20年総会～平成23年総会

担当および委員会	担当理事 ○委員	担当幹事および委員の氏名と所属
庶務・会則・渉外担当	砥石 和子	山本 智美 聖母病院
広報委員会	横尾 京子	中込さと子 広島大学 村上 真理 広島大学
編集委員会	島田 啓子	安達久美子 首都大学東京 有森 直子 聖路加看護大学 木村 千里 日本赤十字看護大学 島田真理恵 聖母大学 春名めぐみ 東京大学 谷津 裕子 日本赤十字看護大学
表彰関連選考委員会	○平澤美恵子 島田 啓子 松岡 恵 毛利多恵子	北川真理子 名古屋市立大学 高橋 弘子 愛知県立看護大学
国際委員会	加納 尚美	石川 紀子 愛育病院 大石 時子 天使大学 小黒 道子 聖路加看護大学 山本 令子 れいこ助産所
国際助産協働委員会	毛利多恵子	五味 麻美 慶応義塾大学 嶋澤 恭子 神戸市看護大学 橋本麻由美 国立国際医療センター 早瀬 麻子 神戸市看護大学
学術会議委員会	○近藤 潤子 堀内 成子	
学術振興委員会	江藤 宏美	浅井 宏美 首都大学東京 片岡弥恵子 聖路加看護大学 田所由利子 慶応義塾大学 八重ゆかり 東京大学
ガイドライン委員会	○江藤 宏美 堀内 成子	
業務検討委員会	○松岡 恵 砥石 和子 平澤美恵子 福井トシ子	神谷 整子 みづき助産院 窪田 裕子 洪川産婦人科医院 福島 恭子 愛育病院 村上 睦子 日本赤十字看護大学
研修・教育委員会	○安藤 広子 恵美須文枝 高田 昌代	栗野 雅代 金沢大学(院生) 岡永真由美 広島大学(院生) 木下 千鶴 杏林大学医学部付属病院 斉藤有希江 杏林大学医学部付属病院 谷口 千絵 日本赤十字看護大学
看護系学会等社会保険連合会	○高田 昌代	福井トシ子
看護系学会協議会	堀内 成子	
監 事	青木 康子 竹内美恵子	
学術集会	加納 尚美 (平成21年4月～平成22年3月) 北川真理子 (平成22年4月～平成23年3月)	
第8期選挙管理委員会 (平成19年4月1日～ 平成22年3月31日)	島田真理恵	安達久美子 首都大学東京 近藤 好枝 慶応義塾大学 佐藤喜美子 杏林大学 島袋 香子 北里大学

受胎調節実地指導員の呼称を募集します!

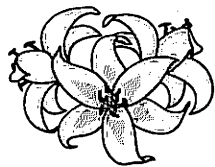
近年、出生率の低下や、不妊、若者の性感染症の罹患、繰り返される人工妊娠中絶の増加、老年期の性の問題など、性と生殖をめぐる問題は各ライフステージにわたっています。

受胎調節実地指導員には、学校、地域社会、病院など様々な場で、より多様な働きをすることが求められています。しかしながら、受胎調節実地指導員の名称は親しみにくく、社会に活動が認知されていないのが現状です。そこで、親しみやすく、役割が分かりやすい受胎調節実地指導員の呼称を募集することになりました。

応募は、看護職だけでなくどなたでも応募することができます。お知り合いにも広報ください。

締め切りは、6月12日です。

応募方法等詳細は、本会のHPまたは日本看護協会HPをご覧ください。



NICUに入院した新生児のための母乳育児支援セミナー

【日時および会場】

東京会場

第1日：平成21年9月5日(土) 10:00～18:00

第2日：平成21年9月6日(日) 9:00～16:30

場 所：日本赤十字看護大学、日本赤十字社助産師学校

広島会場

第1日：平成21年9月12日(土) 10:00～18:00

第2日：平成21年9月13日(日) 9:00～16:30

場 所：広島大学保健学研究科棟

【セミナー内容】

講義：ガイドライン各項目の必要性和その具体的方法
技術演習とグループ討議

【講 師】

横尾京子(広島大学)、粟野雅代(あわの医院 IBCLC)、

大山牧子(神奈川県立こども医療センター IBCLC) 他

【定 員】 各会場とも60名(先着順)

【参加費】 15,000円(2日間) 当日ご持参ください

【申込方法】

1. 日本新生児看護学会HPで申し込み状況をご確認下さい
2. メール neonatal@hiroshima-u.ac.jp からお申し込み下さい
 - 1) 件名に NICU母乳セミナー参加希望 と記載します
 - 2) 本文に 希望会場・氏名・所属・部署・職種 を明記します
 - 3) メール申込みは、1名につき1件としてください
3. 締め切りは 8月20日(木) です

☆ 詳細は同封のチラシをご覧ください ☆

事務局からのお知らせ

お知らせ事項	内 容	方法・連絡先 等
平成21年度 年会費 10,000円納入に ついて	平成21年度会費納入がまだの方は、お振込みをお願いいたします。 円滑な事業推進のため、お早目の会費納入にご協力お願い申し上げます。 学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員であり該当年度の会費納入者であることが条件です。応募される場合は、お早目に会費納入をお済ませの上お申し込み下さい。	ゆうちょ銀行払込みです。 【口座記号番号】 00100-5-83244 【加入者名】 日本助産学会 【年会費】 10,000円 他銀行からの振り込みは 019(当座)0083244 助産学会となります。
変更届について	住所・所属等の変更があった場合はその都度必ずお早めにお知らせ下さい。 学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報下さい。	【連絡方法】 Fax・Mail・はがき等に明記 してご連絡下さい。 JAMホームページの変更・ 退会届をダウンロードできま すのでご利用下さい。
退会時のご注意	平成22年度から退会希望の方は、必ず1月末迄にお知らせ下さい。 退会連絡がない限り会員継続となります。会費納入後に退会を希望された場合の会費については、【会則 第7条(三)】にありますようにお返 しできません。 特に口座引き落としご利用の場合はご注意ください。	
学会誌 バックナンバー 無料化と 書籍販売の お知らせ	送料は申込者負担で配布中です。在庫に限りがあります。 * 日本助産学会誌バックナンバー 第1～17巻 無料、第18～21巻 2,500円/部、第22巻 3,500円/部 * 「マタニティケア政策をめぐる国際比較」国際シンポジウム 500円/部 * 「女性とともにつくるお産と政策」ニュージーランド助産システム 500円/部 * 「日本助産学会委託研究・学術奨励金助成研究報告書(第3号)」 100円/部	【申込方法】 JAMホームページの専用申 込書をダウンロードし、 FAX・E-mailに添付し送信 してください。

☆ 上記についてのお問い合わせ先 ☆
日本助産学会事務局 〒111-0054 東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階
Tel&Fax: 03-3866-3032 E-mail: jam1987@ninus.ocn.ne.jp
JAMホームページ: http://square.umin.ac.jp/jam/

円滑な事業推進に
ご協力下さいますよう、
どうぞよろしく
お願い申し上げます。